

令和6年度美作国創生公募提案事業 成果報告書

- 1 事業名：森の芸術祭と歩むグローバル推進事業
- 2 実施団体：合同会社わっしょいボヘミアン
- 3 担当課：地域政策部 地域づくり推進課

2025年3月

合同会社わっしょいボヘミアン

4：事業概要

森の芸術祭において、真庭市久世地域のような公式会場では無いが、活力ある地域がチャンスと捉え、積極的に参加し、まちや人の個性と魅力を継続して国内外に向けて発信し、人との繋がりを構築する事が新たな地域活性につながると考えています。

今まで進めてきたローカルでの様々な活動に、3年毎に開催される森の芸術祭により中長期の新たな目標が設定され、既存の活動や事業のスケールアップ、この街で新たな生活や活動を始めようとするチャレンジャーの出現も期待します。

世界との距離感を縮めていく事につながるこのような機会が、中山間地の小さくても活気のある地域が潜在的に求めていたニーズと捉えています。

私たちの企画は、「森の芸術祭をローカルの視点から受け入れ、創造し・繋がり・楽しんでいくことで、森の芸術祭の継続的な開催に寄与すると共に、持続的な地域の活性を目的としています」

5：実施内容

1. 久世芸術祭2004『久世げー』

国内・国外含め各地から来られた来場者と地域とをつなぐ接点となるイベント。

「アート・伝統・音楽・食・人がつなげるグローバルとローカル」

をテーマに掲げ、アーティスト・インバウンド・地域外来場者・地域を融合した内容で開催。

イベント開催日時

・2024年10月5日(土)ー6日(日)

開催場所

・真庭市久世・河川公園

2. ローカルフォトブック KUSE Gastronomy

継続的に地域の魅力を世界に向けて発信し続けるためのツールとして、デジタル写真集を作成する。イベントHPの「久世お店紹介：店舗の店舗」をデジタル写真集として出版。「久世げー」や地域の写真もおりませながら、久世の魅力を発信。

媒体

・AmazonKindle

報告詳細：

1. 久世藝術祭2024『久世げー』

Category.A 『営みがつなげる歴史と未来』		Category.B 『アートでつながる久世と世界』	
	<p>パネル展示：『アキナイ・アキナイ/商い・飽きない』</p> <p>今年で100周年を迎えた久世駅は、貨物列車として多くの物資を運搬し、久世の商業や人の流通も支えてきた。そんな昭和初期からのまちの写真や広告と、現在でも活躍する商店を題材に、このまちのストーリーと今が溶け合う。変化と活気のあるまちは100年後も飽きないのではないだろうか。</p>		<p>シンポジウム：『地域づくりとアート』</p> <p>登壇者：卯城竜太(chim↑pom)/川上幸之介(倉敷芸術科学大学)</p> <p>常に社会に問題を提起し続ける世界的アーティスト集団「chim↑pom」のメンバー卯城氏と、美術大学の世界でも異彩を放つ「川上研究室」(倉敷芸術科学大学)率いる川上氏の対談。</p>
5日		6日	
6日	<p>HP開設：『久世お店紹介：店舗のテンポ』</p> <p>100年前にはすでに営業していた老舗店舗や今までにない食文化を提供してくれている新たなお店の数々。お昼も夜も堪能してみませんか？久世を彩る個性豊かなお店（人？）を地域内外にご紹介。営み。それ自体がアート。</p>	<p>音楽と風景と自由：『江南の波 Enami Hz』</p> <p>演奏者：江南泰佐(大阪音楽大学准教授)勝山在住</p> <p>音楽を通じてその地の文化をフューチャーする江南氏。移住者の目線とアンビエントミュージックにより河川敷の風景と時間に新たな文化を提案。</p>	
	<p>映画上映：誰かの営み/上映2作品</p> <p>『Lung Neaw Visits His Neighbours』dir.リクリット・ティラヴァニ</p> <p>森の芸術祭公式アーティスト。料理や食事、読書といった日常的な行為の共有を通じた社会的交流を提示する活動で知られている。</p>	<p>食事と笑顔を共有：『ミンナトゴハン』</p> <p>提供：沼本吉生(ヒトゴハン)</p> <p>みんなの持ち寄り食材を、異議が誇るゲータリング集団「ヒトゴハン」が素敵に料理。参加するには食材を持ってくるだけ。忘れた人とシェアしちゃいましょう。</p>	
5日		6日	
6日	<p>『ある夏の日記』dir.宇和川輝</p> <p>映画監督。スペインで映像を学んだ後、北房に住む祖母を撮影した『日記』を制作。新作『ユリシーズ』が2024年マルセイユ国際映画祭に正式出品。</p>	<p>コラボレーション企画：『ミューラル』</p> <p>「ストーリーを内包し、未来を今クリエイティブし始める」</p> <p>そんなマインドのきっかけとなる日本最大級のアートプロジェクト！！</p> <p>そのお披露目イベント。</p>	
	人は喜ばれます。さー見てみましょう。どこかの誰かの営み。		

CATEGORY.A 『営みがつなげる歴史と未来』

1) パネル展示：アキナイ・アキナイ

開催日時：10月5-6日（中心街の写真は一部現在も展示中）

開催場所：久世中心街、風曜日

来場者：@風曜日 約120名（延べ人数）、@中心街 計測不能

内容：

地域の皆さんに募集をかけ、お借りできた写真をレタッチし大判印刷。その素材をカットし久世中心街に展示。建物やお店の窓だけでなく、商店街フリースペース風曜日にて、90年前の商工会冊子から当時のお店150店舗分のチラシをレタッチし展示。

歴史が現在をハックする。

イベント状況：

写真募集に対しする応募は予定より少なく、知人などをお願いをしてお借りする事で多くの写真を使用できた。しかし、写真を貸してくれた皆さんには大変喜んでいただいた。また、久世駅CLTトイレに展示した写真は市からの許可で継続して展示している。学生や通行人の多い場所に展示しているが、観覧者の延べ人数は把握できていない。フリースペース風曜日では、戦前の商工会冊子からのチラシと久世劇場（現在は廃業）の写真展示は年配の方中心ではあるが、昔を懐かしむ会話と共に展示を楽しんでいただき二日間で延べ120名の来場があった。

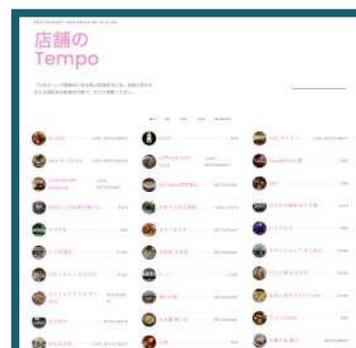
好評であったため展示会場のオーナー武藤氏からも、再展示の要望が来ている。過去の写真募集も継続しながら、このパネル展示企画は継続して行う事を決定している。



2) HOMEPAGE特別企画：久世お店紹介 店舗のテンポ

内容：

100年前にはすでに営業していた老舗店舗や今までにない食文化を提供してくれている新たなお店の数々。久世を彩る個性豊かなお店（人？）を地域内外にご紹介。



3) 映画上映：誰かの営み

開催日時：10月5-6日

開催場所：ビクトリシアター

上映作品：「Lung Near Visits His Neighbours」dir.リクリット・ティラヴァニ

「ある夏の日記」dir.宇和川輝

来場者：約80名（延べ人数）

内容：

タイでのとある日常と真庭市北房のとある日常を綴ったドキュメンタリー映画を放映。久世げーでは、人々の営み自体をアート表現として捉えており、他の地での営みを映画を通じて感じてもらう試み。リクリット監督は「森の芸術祭」の公式アーティストである。宇和川監督は最新作「ユリシーズ」が世界的にも評価を受けている、北房にルーツのある映画監督である。

イベント状況：

両作品とも注目を集めている監督の作品でもあり、会場はオープンな状態で出入り自由な事から、毎回20名（座席数23席上映回数4回）ほどが視聴していた。リクリット監督は森の芸術祭公式アーティスト。我々が目指していた「森の芸術祭と歩む」という目的とも合致しており、監督作品目的の方も来場していた。映画館を無料で出入り自由にする試みは、インディペンデントな映画を観覧するハードルを下げるため、通常の上映より多くの方にお越しいただいた。今後もこのスタイルに近づけた上映をするには試行錯誤が必要となるが、現在の映画が映画ファンだけでなく多くの方に映画館に訪れてもらい、地域が活性するには必要なチャレンジであると感じた。



CATEGORY.B 『アートでつながる久世と世界』

4) シンポジウム：地域づくりとアート

開催日時：10月6日

開催場所：久世河川敷

登壇者：卯城竜太(chim↑pom) / 川上幸之介(倉敷芸術科学大学)

司会：池田将 ゲスト：三井知行（真庭市学芸員）、大倉 佑亮（森の芸術祭）

来場者：延べ60名

内容：

常に社会に問題を提起し続ける世界的アーティスト集団「chim↑pom」のメンバー卯城氏と、芸術大学の世界でも異彩を放つ「川上研究室」（倉敷芸術科学大学）率いる川上氏の対談。

イベント状況：

全国的に増加する地域のアートイベント。世界的アーティストの卯城氏とパンク・アナーキズムなどラディカルな視点から現代アートを読み解く川上氏の対談は多くの示唆を含み観覧者の興味を惹きつけていた。当日は予想以上に天候が良く、晴天の元での屋根無しの進行は難しいとの判断となり、来場者の皆さんに協力いただきながら竹ドームに布を貼り、直射日光を避けたステージと観覧スペースを作り上げた。それ以外の場所からも観覧できるよう設営はしてお



り、屋根スペースの20名の他に、エリア観覧者や通りがかりに足を止めている人たちで延べ60名をカウント。また、森の芸術祭との連動という意味では、キュレーターの一人である大倉氏に登壇していただいた。参加者の声だけでなく、登壇者の皆さんから久世芸術祭全体での外部からの高評価をいただき、今後の活動を継続する励みとなった。

5) 音楽と風景と自由：江南の波

開催日時：10月5日

開催場所：久世河川敷

演奏者：江南泰佐（大阪音楽大学）、Betts(JP)、mainichi sushi

来場者：約300名（延べ人数）

内容：

音楽を通じてその地の文化をフューチャーする江南氏。移住者の目線とプロのミュージシャンが生演奏するアンビエントミュージックにより河川敷のいつもの風景と夕刻の時間が特別な空間に変化する。森の芸術祭公式アーティストからBetts(JP)氏も参加。

イベント状況：

夕刻前から始まったイベント会場は竹で作られたドーム3基がステージ・飲食販売・観客用に装飾され、河川敷をアート空間に演出していた。座布団が敷き詰められた河川敷では、参加者が思い思いの姿でライブ演奏を楽しんでいた。開始時には日中から開始されたコラボレーションイベント「ミュール@スケボーパーク」の参加者の姿もあり河川敷が賑わっていた。音響設備のセッティングも川側に向けた作りで、一般住宅への影響も抑えつつ良好な状態であった。町行く散歩中の人々も立ち止まって音楽を聴いたり、河川敷に降りてきて参加していた。地域外からの参加者も多く、後日このイベントの高評価を地域外から聞くことが多かった。屋外フリーイベントではあるが、河川敷には50名ほどの姿が常にあり、通行人を含めるとさらに多くの方にイベントを感じていただいた。

6) 食事と笑顔を共有：ミンナトゴハン

開催日時：10月6日

開催場所：久世河川敷

提供：ヒトトゴハン

来場者：約50名

内容：

みんなの持ち寄り食材を、真庭が誇るケータリング集団「ヒトトゴハン」が炊き出し。参加するには食材を持ってくるだけ。忘れた人とシェアも可能。

イベント状況：

食材をどれだけの人が持ってきてきていただけるか未知数であったが、半数以上の参加者が持参していた。シンポジウムの後だった事もあり、その場にながら食材を持っていない来場者と食材をシェアする参加者ばかりであった。その場での炊き出しによる食事のクオリティは高くほぼ完食となった。食材のシェアから会話が繋がり、グループでの食事風景が見られた。



久世げーの最後のイベントでもあり、来場者とともに久世藝術祭の終わりを惜しんだ。

コラボレーション) ミュール@スケボーエリア

開催日時：10月5日

開催場所：久世河川敷

主催：ミュールアートプロジェクト実行委員会、アートで地域づくり実践講座実行委員会

後援：真庭市、真庭市教育委員会

おかやま県民文化祭参加事業、アートマネジメント人材育成・地域定着支援事業

アーティスト：SUIKO プロデュース：WALL SHARE

来場者：約300名(延べ人数)

内容：

久世河川敷をキャンバスに世界的アーティストSUIKOがミュールアートを描くアーティストレジデンス企画。お披露目イベントとしてダンス・BMX・DJ・マルシェとSUIKO氏による講演。幅90cm×全長100mのDoodle Paperに参加者に自由に落書きをしてもらうコーナーも設置。

イベント状況：

同日開催となったアート企画。式典には真庭市太田市長も参加し、10月5日のスタートを盛大に飾った。約3週間に及ぶ製作活動により、日本最大の地上ミュールアートが完成。当日は出演者の小学生～高校生のダンスチーム・BMXのエキジビションもあり、一般の観覧者だけでなく家族連れや応援する人たち、SUIKO作品の完成を知った遠方の来場者などで会場は大いに湧いた。普段からミュールアートの制作過程が気になっていた地元住民の方も多数参加していただき、年齢層も幅広いものであった。長さ100mにも及ぶ落書きコーナーも同じく、参加者が描くことの楽しさを表現していた。制作中には真庭市の子供向けワークショップも開催し



たことから、広島在住のSUIKO氏と地元の接点はすでに生まれていた。アートに関心の高い方や、新たな遊び場で楽しむ人たちはそのまま久世芸術祭「江南の波」に参加となっていた。



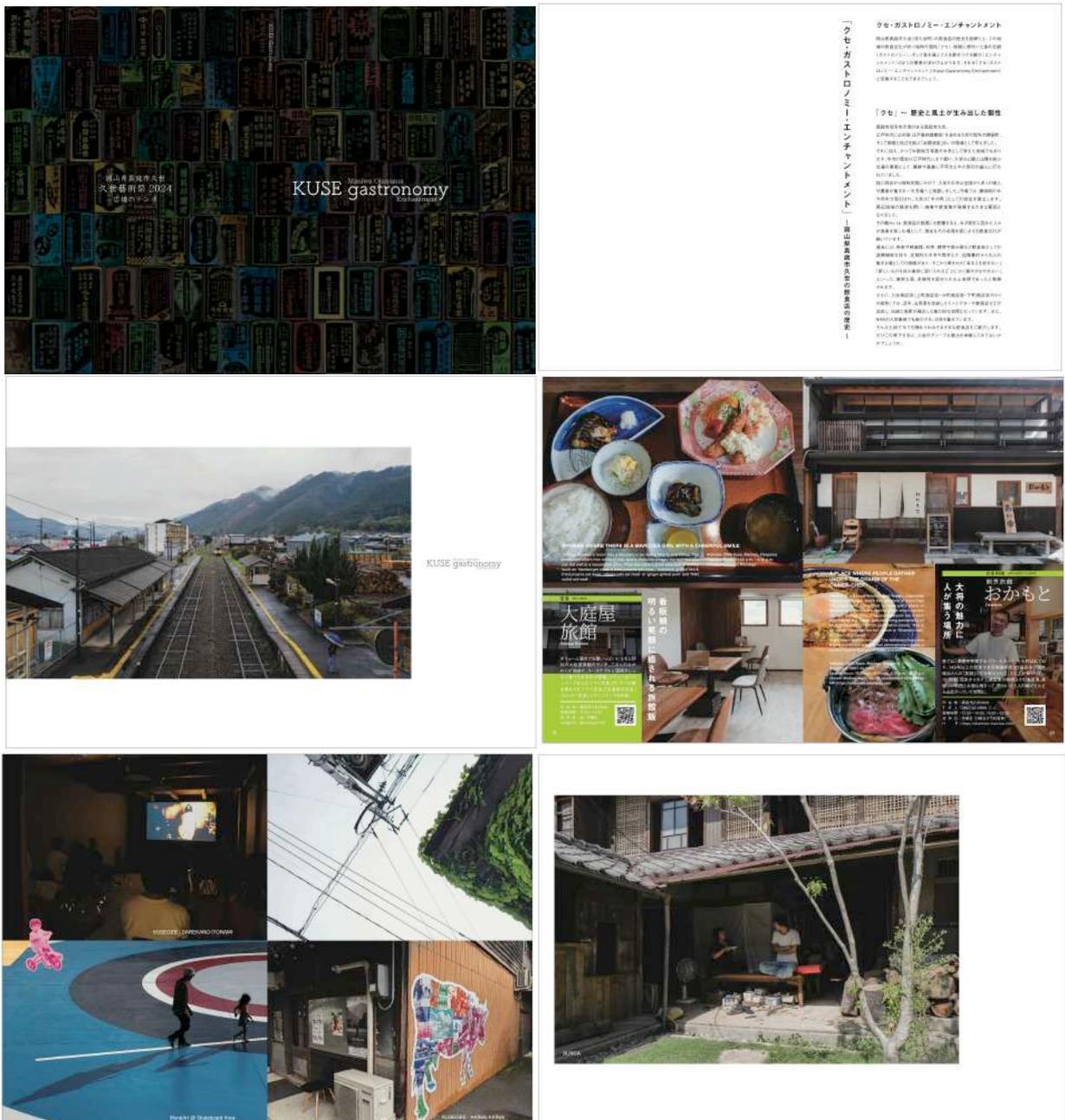
2. ローカルフォトブック『KUSE Gastronomy』

販売プラットフォーム：Amazon Kindle Unlimited

販売金額：0円（ロイヤリティー別）

内容：

真庭市久世の飲食店を全店舗網羅した「店舗のテンポ」をデジタルブック化。また、今回の久世芸術祭の写真や久世の日常をとらえた写真を差し込み、真庭市久世全体に興味を持ってもらえるような構成に再編。amazon kindle unlimitedのプラットフォームを活用し全世界に向けて発信。今後の森の芸術祭の開催に向け、地域と世界を継続してつないでいくコンテンツとして今後もデジタル写真集を発刊予定。



一部抜粋

3. 広告

1) B2ポスター

2) A4チラシ

3) ホームページ

https://kusegee.com



CATEGORY A

営みがつなげる歴史と未来

営みは常に新しい歴史が積み重なると、変化と成長を促す人々の営み。この営みの歴史は、人の営みに刻み込まれていくものでないでしょうか？！その営みは、「歴史」のストーリーを内包し、「未来」につなげていく。その「未来」が、今の営みにある。『今』を歴史とする営みがある。

アキナイ・アキナイ

今年が100周年を迎える久世郡は、歴史の宝庫として多くの物語を運び、人々の営みに刻み込まれていくものでないでしょうか？！その営みは、「歴史」のストーリーを内包し、「未来」につなげていく。その「未来」が、今の営みにある。『今』を歴史とする営みがある。

10.5 - 10.6

more info

久世郡美術館

店舗のTempo

美術館や町並みに古い建物を活用している新たなお洒落の街。お洒落も楽しむ楽しみから久世郡を彩る個性豊かなお洒落の街へ。お洒落、それがアート。

Every Day

more info

作家上野

Lung Neaw Visits His Neighbours

by リグレット・ティラワニ

彼の作品はアート・パフォーマンス、舞踏や音楽、演劇といった日常文化の営みの営みとして、社会の営みを豊かにする営みで知られている。2019年ニューヨークで発表された展覧会作品を上映。

10.5 - 10.6

more info

作家上野

ある夏の日記

by 宇野浩二

スペインで暮らす宇野浩二が、日記に描く日常の営みを描いた『日記』。ある夏の日記。愛を込めて綴る日記の営み。それは営みの営みである。

10.5 - 10.6

more info

コンセプト

地域づくりとアート

企画 尾花 (Chim / Fem from Snappet Group)

川上 恵之介 (建築家・久世大学学長)

営みに社会問題を取り上げ、芸術アートを通じてChim / Fem / Snappet Groupの営みを、久世大学の歴史でも再考を促すアート展覧会 - 川上恵之介の企画。

10.5 | 11h

more info

音楽と芸術と音楽

江市の波 Enami Hz

江市 豊田 (久世大学学長)

音楽を通じてその営みを伝えるアーティスト - 江市 豊田。音楽の営みとアートの営みを結びつける。川上恵之介の企画。

10.5 | 18h

more info

音楽と芸術と音楽

ミンナトゴハン

音楽家 (ヒトゴハン)

みんなの営みを音楽で。音楽が奏でるミンナトゴハン「ヒトゴハン」が音楽に。音楽家は音楽を持ってきてくれる。みんなの営みを音楽で。

10.5 | 19h

more info

コラボレーション企画

ミューラル @ スケボーエリア

MIKAO

「ストーリーを語り、未来をいまのキャンパスに。」みんなの営みを音楽で。音楽が奏でるミンナトゴハン「ヒトゴハン」が音楽に。音楽家は音楽を持ってきてくれる。みんなの営みを音楽で。

10.5 | 19h

more info

4) SNS



5) PR TIMES



地域発祥！暮らしの中のアートを探る「久世藝術祭2024『久世げー』」を10/5,6に開催

響みがつなげる歴史と未来。アートでつながる久世と世界。

わっしょいボヘミアン 2024年9月25日 11時10分



- ◇開催場所：岡山県真庭市久世 旭川河川敷・商店街周辺
- ◇開催日時：2024年10月5日（土）10:00～20:00、10月6日（日）10:00～16:00（2日間）

岡山県真庭市は県北の中山間地域に位置し、里山資本主義やバイオマスエネルギーなど自然や地域の資源を活かした暮らしがあります。
 今秋岡山県北で開催される「森の芸術祭」（岡山県主催）に合わせ、岡山県真庭市久世では「久世藝術祭2024『久世げー』」を開催します。

6：事業実施による成果、効果、今後の課題

(1) 成果・効果

- ・ イベントに訪れた人数としては二日間延べ700人+触れた人α（一部目視）
- ・ 真庭市の施設を利用した展示作品が現在も展示中
- ・ デジタル写真集の閲覧者数20名
- ・ 今回のイベントを契機に、久世商店街河川敷側に新たなお店（カフェ&バー）が空き家をリノベーションして3月にオープン。

(2) 課題

・ 定量的な来場者の計測ができていなかった、アンケートが取れていなかった：
会場貸切のような人数のカウントがしやすい場所ではなく、あえて野外での誰でも参加できる日常的な場所・ただの通勤通学や散歩でも通る場所を会場や発信の場とした事と、それへの対策がとれていなかった事による結果だと認識している。良い評価の声はいただくが、問題点を見つけ次に繋げていくには声かけによるアンケートを積極的に取るべきだったとの反省があり、今後対策を立てていきたい。

・ 地域との連動：

今回のように地域の方に写真をお借りするなどの地域巻き込み型企画は今後も続けていきますが、写真募集などの周知に関してもっと良い方法を検討しなければと考えます。

・ 森の芸術祭との連動

森の芸術祭との連動として、アーティストのリクリット氏の映画上映やキュレーター大倉氏にお越しいただきシンポジウムに登壇いただいた。今回は森の芸術祭運営サイドと幸運にも繋がっていたので可能となった企画であった。ぜひ次回の森の芸術祭でも連動が取れる事を期待したい。

今後の活動について

今回の「森の芸術祭」を契機にした地域アートイベント「久世げー」は、それぞれのコンテンツが独立してイベント化（日常化）できるような評価と、発信側のモチベーションがあり、次回の森の芸術祭まで継続した活動をしていく事を決定しています。

継続するための資金面に課題はありますが、目の前の営利目的でなく町への投資と考える事で、目標としている、「町の活性」「チャレンジしたい人を増やす」「空き家の利活用」に近づいていくと考えています。

森の芸術祭の次回開催時には、今回同様の積極的な地域発信を企画したいと考えています

7：県民局と連携した効果及び課題

- ・ 県民局事業で採択を受けたことにより、森の芸術祭PICK UP PROGRAMの認証をいただけた。広告でも取り上げられ集客の増加やイベントの信頼度UPに繋がった。
- ・ 200万の予算があり、オープンな場での無料イベントが開催できた事で、目的としていた事にスムーズに挑戦できた。芸術やアートなどに興味のない人たちの目にもとまり、まちの賑わいにも直結させる事ができた。自費のみでは到底できないスケールでイベントを開催できました。